

Contest

【過去の結果発表】

2008年オリジナル作品作曲コンテスト 結果発表

2008年上半期のオリジナル作品作曲コンテスト「カテゴリー A」へのたくさんのご応募、ありがとうございました。多数の応募作品の中、一次審査を5作品が通過いたしました。その後二次審査を行いました。入選の審査規定80点に届く作品がなかったため、今回は「入選作品なし」という残念な結果に終わりました。

現在、コンテスト・カテゴリーB「金管アンサンブル変奏曲」で作品を募集しています。こちらは「ぶんぶんぶん蜂がとぶ」「ねこふんじゃった」のいずれかから選択していただいた曲を主題に、変奏曲のコンテストとなります。みなさん、是非ふるってご参加ください。

(2008/7/26)

★「カテゴリー A」入選：該当作品なし★

【審査員】

三澤 慶 (ズーラシアンブラス・クラシック担当音楽監督 トランペット奏者、作曲家、侍 BRASS メンバー、2006 年度全日本吹奏楽コンクール課題曲作曲者)

高橋宏樹 (ズーラシアンブラス専属作編曲家 03,05 年度全日本吹奏楽コンクール課題曲作曲者)

石川亮太 (ズーラシアンブラス専属作編曲家)

山口尚人 (ズーラシアンブラス スマトラトラお友達プレーヤー、山金シリーズ楽譜編曲者
新日本フィルハーモニー交響楽団副首席トロンボーン奏者)

【総評】

今回はオリジナル作品という事で、それぞれ個性のある秀作がズラリと並び、非常に感心させられるコンテストとなりました。技術面の高い作品も多く、フレーズ、リズム、和声など、様々な点から感心させられる一方、コンピューターベースでの作業が中心という事もあり、いくつかの音楽素材を組み合わせ、時には繰り返し、時間をやみくもに埋めてしまう作品が多かったのも否めません。結果的に、かなり独自のインパクトがある作品も、音楽としての中心が見えなくなってしまったり、曲として何が伝えたいのか、いまひとつわからなくなってしまっている作品は非常に多かったように感じます。聞き手の立場からはやはり音楽の感動が求められるわけで、作り手には自分の思いついた、音楽的エッセンスを感動的に聞かせるテクニック、構成力が必要になると思います。その為には、ただコピーして再現部分を作ったり、メロディーと伴奏の組み合わせだけのアレンジを繰り返したりせず、1番伝えたい部分を感動的に見せる為に何が必要かを常に考え、曲の頭から終止線を引くまで作曲し続ける「気骨」が必要ではないか、と思います。みなさんのすばらしい作品楽しみにしています！

(2008.07.26 三澤 慶)